

JA全農ウィークリー WEEKLY

9面

「ご飯でチャレンジ、甲子園！」プロジェクト 「高校野球と食事」でシンポジウム

8面

業務用向け米の契約栽培推進



農業広域物流体制に参画したJAさが向けの初荷積み込み作業(2面)



山形市のJR山形駅ビルにオープンした「みのりみのマルシェ エスパル山形店」(2面)



「ご飯でチャレンジ、甲子園！」プロジェクトPRのキックオフで開かれたパネルディスカッション(9面)

- 2 ニュース&トピックス(肥料農薬部、山形県本部)
- 3 ニュース&トピックス(神奈川県本部、新潟県本部)
- 4 ニュース&トピックス(営農・技術センター、秋田県本部)
- 5 特集: 特別表彰、功労賞(人事部)
- 6 JAズームイン(JAちばみどり)
- 7 県本部だより(福岡県本部)
- 10 青果情勢(園芸部)
- 11 畜産情勢(畜産総合対策部)
- 12 コミュニケーション(生産資材部、JAタウン)



News!



農薬広域物流体制 JAさかの参画で拡大

平成29年12月から佐賀県内への配送開始

肥料農薬部

テープカットで安全運行と事業発展を祈願した初荷出発式



JAグループは、経済事業改革の一環として農家配送業務を県域・連合会へ委託する広域物流体制の構築に取り組んできました。北部九州地区では、平成24年12月に佐賀県鳥栖市に「北部九州広域物流セン

全農肥料農薬部は平成29年12月1日、北部九州広域物流センター（佐賀県鳥栖市）で、JAさが初荷出発式を行いました。JAさが、全農北部九州広域物流体制に参画することで、県域を越えた「物流コスト削減」と「農業者ニーズへの対応強化」を一層進め、事業競争力強化を実現していきます。

ター」を設置し、福岡、長崎、大分3県の農薬在庫一元管理、農家別セット組の集中作業ならびに配送を始めています。3県での運用と並行して、JAさが・全農の合同研究会を立ち上げるなど、佐賀県内への配送に向けた準備を進めてきました。

初荷出発式でJAさかの坂口雅義専務は「北部九州広域物流体制への参画を機に事業競争力の強化を図り、既存業務の合理化・効率化により、農家組合員の『生産資材価格引き下げ』の実現に取り組み」とあいさつされました。

今回のJAさかの参画により、同センターが扱う北部九州地区4県の農薬の年間取扱金額は100億円を超えることになり、更なる効率な運営に努めていきます。

News!



みのりみのるマルシェ山形店オープン

JR山形駅ビルから山形のおいしさ発信

山形県本部

オープン初日から多くの来場者でにぎわう「みのりみのるマルシェエスパル山形店」



山形県本部は平成29年11月17日、山形市のJR山形駅ビルのエスパル山形1階に農産物販売店「みのりみのるマルシェエスパル山形店」を開店しました。

「エスパル山形」のり多くの品物を取りそろえ販売しています。

開店から3日間のオープニングイベントでは、毎日先着200人に、あめ菓子「ラ・フランスの恋」をプレゼント。「つや姫レディ」による県産米「つや姫」の試食販売や旬の県産リンゴと西洋梨「ラ・フランス」の特価販売などもあり、大いににぎわいを見せました。

鈴木政宜店長は「県内外の消費者に新鮮で高品質な山形県産農産物の良さを広く知ってもらい、近隣住民の人にもJAグループを身近に感じていただける店を目指します」と意気込みを語りました。



昭和女子大生考案「大根メニュー」を期間限定販売

京急百貨店内のレストランが3品採用

神奈川県本部

レシピを考案した学生と原准教授。メニュー採用を皆で喜んだ



三浦市農協と神奈川県本部農産販売課は、2017年春から昭和女子大学の産学連携プロジェクトに協力し、出前授業や産地見学の受け入れ、京急百貨店へのプレゼン支援などを行いました。

昭和女子大学で栄養士・管理栄養士を目指す学生が、「大根の消費拡大」に向け授業で考案した約30品のメニューのうち3品が、横浜市の京急百貨店内のレストラン「グランドウーカ」「おぼん de ごはん」でアレンジされ、11月11日～2月7日の期間限定で販売中です。

管理栄養学科の原正美准教授は「高品質な野菜作りにかける生産者の思いを酌んでメニューを作成する事は、学生にとって貴重な経験」と評価します。

2品をアレンジした「グランドウーカ」の福田良太総料理長は、「ヘルシー、インスタ映えなど学生のこだわりを尊重し、三浦産食材中心のイタリアンに仕上げた。学生とのコラボは面白く刺激を受けた」と振り返ります。産地では「学生考案の大根メニューを消費拡大に役立てたい」と話しています。

「グランドウーカ」福田総料理長。アレンジ「三浦産大根のニョッキ」



公募の参加者190人が取れたての新潟味わう

「JA全農にいがた大収穫祭2017」開催

新潟県本部



旬の県産食材をふんだんに使ったコース料理を楽しむ参加者

この催しは、前年に続き2回目の取り組みです。今回は旬の県産食材をふんだんに使ったコース料理を楽しむことをメインに、県産農畜産物を紹介する動画放映や県産農産物および加工品が当たる抽選会を行いました。

新潟県本部は平成29年11月26日、新潟市内のホテルで「JA全農にいがた大収穫祭2017」を開き、公募の一般参加者を中心に約190人が参加しました。

ることができました。

参加者からは、「あらためて県産食材の種類の多さやおいしさを発見した」、「生産者との交流ができて良かった」との言葉をいただきました。

また、イベントで提供した料理メニューの一部を県本部直営レストラン「カフェ&グリルみのりみのる」で期間限定販売（11月27日～12月30日）し、店舗の集客力アップを図りました。



抽選会でインタビューを受ける生産者

News!



「ゆめファーム全農」で新規トマト生産者育成

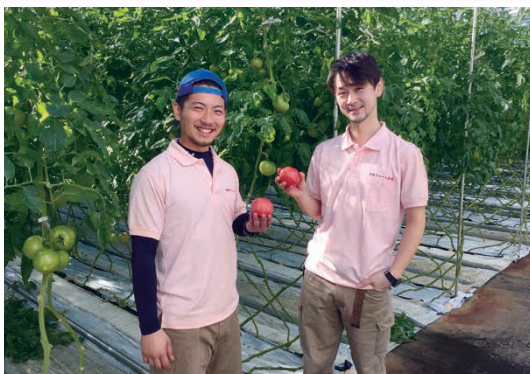
栽培技術から農場運営まで幅広い研修を実施

営農・技術センター 生産資材研究室

「ゆめファーム全農(営農・技術センター生産資材研究室ゆめファーム全農栃木分室)」は、人材育成を目的にトマト栽培の研修生受け入れも行っています。

「ゆめファーム全農」は平成26年8月に栃木県栃木市に設立し、平成29年8月にトマトの第4作を開始しました。これまでに第1作では出荷量40・2t/10aの実績を挙げ、「40t/10a出荷」の所期の目標を達成し、第2作以降も継続した高位安定生産を実証しています。

研修はトマト栽培生産者や後継就農者、新規就農者



トマトの栽培技術から農場運営まで幅広く学ぶ研修生

を対象とし、栽培技術から農場運営までの幅広い研修を1年間実施しています。具体的には、研修生が自ら生育調査を行い、トマトの生育診断を毎週実施し、長期多段どりトマト栽培で重要となる環境制御技術を学んでいます。

研修生の受け入れは栃木県内を中心とし、栽培面積が限定されていることから年間3人程度を上限としています。これまでに1人が巣立ち、栃木県内で若手トマト生産者として活躍しています。研修終了後も農業クラウドサービス「アグリネット」を通じてお互いのハウス内環境データの比較を行い、支援しています。

昨年からは新たに2人を受け入れました。研修生たちは、今後、自分の産地をけん引すべく意欲的に研修に取り組んでいます。

News!



生産コスト低減の取り組み状況を報告・協議

平成29年度JA営農・経済部課長会議を開催

秋田県本部

秋田県本部は平成29年11月21日、秋田市で「JA営農・経済部課長会議」を開き、県内JAから担当部課長ら40人が参加し、生産コスト低減の取り組み進捗状況を協議しました。

会議では、①基肥肥料の集中生産・購買を通じた価格引き下げによる集約銘柄の取り組み②スケールメリット、物流コスト削減を図る担い手直送規格農菜の取り組み③生産者モニター

やアンケート結果を反映させた機能を絞った低価格農機についてなど、全農が生産者の手取り最大化に向け取り組んでいる主な自己改革の進捗状況を報告し、今後の対応について協議しました。

また、JA全中が作成した「農協改革の本質とJA自己改革」を用い、これまで以上に生産者へ取り組み内容の理解を求め、改革に取り組んでいくことを確認しました。

秋田県本部は、今後もJAと共に生産者に有益となる提案を行い、農業所得の増大と農業生産の拡大、地域の活性化に努めます。



生産コスト低減の取り組み状況を協議したJA営農・経済部課長会議

JAタウン室を特別表彰、 特許発明登録者4氏に功労賞

全農は、職員の事業貢献への尽力をたたえ公表することで、職員・職場の一層の意欲向上を図ることを目的に表彰しています。神出元一理事長は平成29年12月15日、「JAタウン事業の取り扱い拡大による事業機能強化」の功績をたたえ、本所生活リテール部くらしの支

援事業課JAタウン室に特別功労賞を授与しました。また、生産者の手取り向上やJAグループの事業機能強化につながる特許の発明、出願・登録の功績をたたえ、特許発明登録者4氏に功労賞を贈りました。

【人事部】



特別功労賞を受けたJAタウン室のみなさん



特許の発明、出願・登録で功労賞を受けた4氏(前列)

特別表彰

JAタウンは、ネット通販市場における国産農畜産物の販売拠点として、平成13年に全農が開設したインターネット上のショッピングモールです。開設以来、JAグループの出店を推進し、会員数と出店数を伸ばしてきましたが、近年は伸

び悩みの状況にありました。

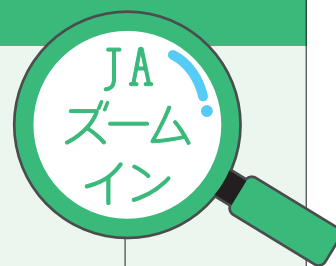
そのなかで「消費者直接販売の拡大に向けた事業の拡充」の実践として、①大手ネット通販事業者との提携による認知向上、②JAバンクをはじめとする法人需要の獲得、③「ふるさと納税」関連事業への参

入の新しい取り組みを実践し、大幅な取扱高拡大を達成しました。また、これらの取り組みを通じ、本会事業計画の「元気な地域社会づくりへの支援」の実践と国産農畜産物の取り扱い拡大に貢献しました。

功労賞

特許の発明、出願・登録功労賞を受賞した4氏の業績は次の通り。

対象者	本所耕種総合対策部 営農・技術センター 山田 圭太 石田 裕太郎	本所畜産生産部 福岡畜産生産事業所 いでた 出田 篤司	本所生産資材部 東北広域施設事業所 三浦 実
特許名	植物栽培用容器及び植物の栽培方法	哺乳動物の胚又は受精卵の非凍結低温保存方法	積雪耐荷重試験方法
特許の概要	発泡スチロールを活用したJA全農式トロ箱養液栽培システム「ういずOne」用の栽培槽の開発、研究、実証試験を行い、水稻育苗ハウスの遊休期間におけるミニトマトなどの施設園芸品目での普及につながる栽培容器と栽培方法の特許を取得した。 平成25年2月28日に申請し、29年2月24日に登録。	本会ET研究所が取り組んでいる牛の受精卵移植における「受精卵のチルド(非凍結)での保存技術」の開発・実用化に取り組み、従来の凍結受精卵の欠点だった凍結と融解過程でのダメージをなくすチルド保存液開発に取り組み、実用化に至り、畜産農家への受精卵供給事業拡大につながった。 平成24年8月21日に申請し、28年10月14日に登録。	施設園芸で広く使用されている地中押し込み式パイプハウスについて、一つのアーチパイプを架構(骨組みとなる部材を結合して組み立てた構造物)モデルとし、各節点にかかる固定荷重と単位積雪荷重を段階的に増やしながら載荷してアーチパイプの変形量を測定することで積雪耐荷重を評価するもの。 平成27年3月31日に申請し、29年3月31日に登録。



組織活動生かし生産基盤強化

県下最大のちばエコ農業産地

JAちばみどり (千葉県)



概要

平成29年12月31日現在

正組合員数	1万2234人
准組合員数	9344人
職員数	391人
販売品取扱高	317億8千万円
購買品取扱高	91億4千万円
貯金残高	1667億円
長期共済保有高	6302億2千万円
主な農産物	キャベツ、ダイコン、 キュウリ、トマト、ネギ、イチゴ、メロン、 米、生乳、鶏卵

JAちばみどりは温暖な地域で、年間を通じてキャベツやダイコン、キュウリなど約60品目の作物や農畜産物を生産しています。販売品取扱高は年間300億円を超え、首都圏から100km圏内という利点もあり、新鮮な農畜産物を供給しています。

担い手担当や営農振興員 出向く体制、対応力を強化

5JA合併から17年目を迎えますが、生産組織を第一に、活性化を支援するため営農指導体制の構築と生産者へ出向く体制、対応力の強化を図っています。80以上の組合員組織を有し、

担い手担当や営農振興員は、JA主催の総会をはじめ査定会、反省会、講習会、
圃場巡回などに2万件、携帯電話や電子機器などで2500件以上に対応し、

生産組織・農家と密接に関わりタイムリーな情報伝達をしています。地道な活動が評価され、平成29年11月に

早くからエコ農業を推進 県の認証受け地位を確立

JAを代表する生産組織「銚子野菜連合会」が千葉県功勞者表彰を受けました。

銚子野菜連合会は604人で組織し、キャベツ、ダイコン、トウモロコシなどを作付け、「灯台印」ブランドとして、全国に知られています。早くから、土づくりのための堆肥や緑肥の利用に取り組み、併せて化学肥料・化学合成農薬の削減に組織を挙げて努めてきました。

千葉県の環境保全型農業普及に向け平成14年、減農薬・減化学肥料などによる「ちばエコ農産物認証制度」がスタートし、いち早くキャベツ・ダイコンでちばエコ



ちばエコ農業産地となっているダイコンの圃場

農業産地の指定とちばエコ農産物の認証を受け、現在ではキャベツ・ダイコンで県下最大のちばエコ農業産地となっています。

これからも組織力を大事に販売力の強いJAになるべく、農家所得を増やし、組合員からより一層頼られるJAとしてまい進していきます。



「灯台印」ブランドで全国的に知られるキャベツ



エコ農業を実践する銚子野菜連合会本部役員の皆さん

県本部 だより

福岡県本部

(株)N Jアグリサポート 生産振興・販売力強化実践 イチゴに続きトマト栽培にも着手

産を開始し、生産から収穫・流通・販売に至るまでの技術・知識を学ぶ環境を整え、今後の農業を支える人材育成に取り組んでいます。

**実践的研修でイチゴ栽培
収量は県平均の1.5倍**

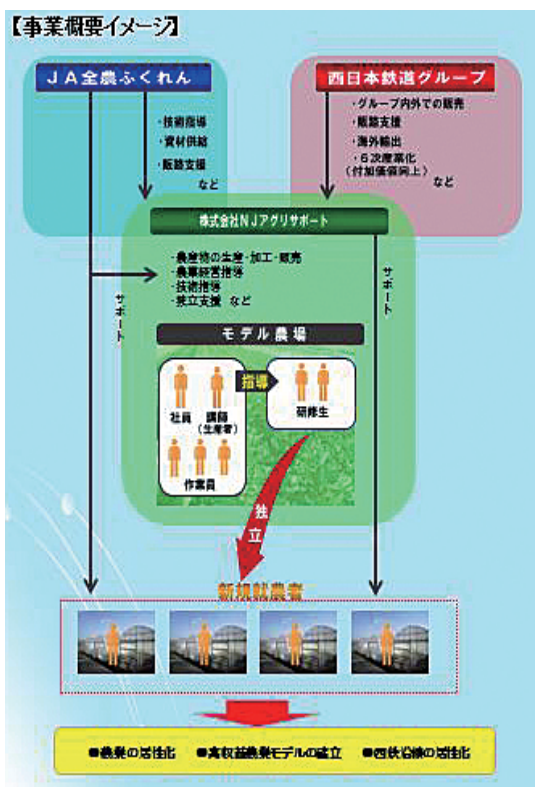
実践的研修施設との位置付けのもと、福岡県を代表する

福岡県本部は平成27年3月、「西日本鉄道」が持つ商品企画、販路などのノウハウと「JA全農」の持つ営農生産指導のノウハウを組み合わせ、総合的な農業振興を目指す会社として(株)N Jアグリサポートを立ち上げました。

発足当時からイチゴ生産に加え、今年度からトマト生



県平均を大幅に上回る収量のイチゴ栽培



高収益品目であるイチゴ「博多あまおう」を栽培しています。農業に関する深い知識と実績、従業員雇用による大規模栽培を実践しており、10アあたりの収量規模とともに県内トップレベルのベテラン生産者を講師に迎え、イチゴの基礎知識から応用まで事細かに実践作業を取り入れた研修を行っています。

初年度、2年目ともいくつかの失敗はあったものの、それを糧としてマニュアル化し、



今年度からスタートしたトマト栽培

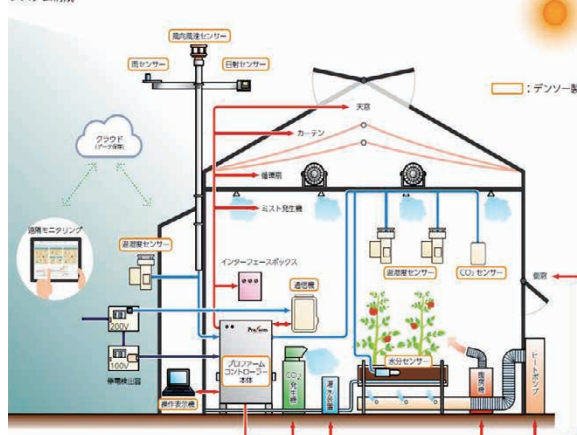
農業の実践第2弾として、トレーニングファームの位置付けのもと今年度10月末から環境制御によるトマト栽培を開始しました。

環境制御による トマト栽培を開始

イチゴに続く高収益

同社のみならず卒業生とも情報を共有することで収量向上につながっています。同社の収量は県平均のおよそ1.5倍となり、生産基盤を確立しつつある状況であり、卒業生の収量も県平均を大きく上回り、生産者として順調な滑り出しとなりました。

システム構成



トマト栽培のイメージ

(デンソー社製プロファーム)を導入し、各種機器を設定値に基づき統合的に自動コントロールしています。これにより生物成長6因子(光/温度/湿度/CO₂/水/養分)を最適化し、理想的なハウス環境を実現するとともに、生産振興に貢献しています。栽培方法には、簡単、低コストなココバック栽培を採用しました。

目標数量としては、初年度は10ア12.1トですが、将来的には37トとし、環境制御ハウス栽培による高収益農業を実践していきます。



担い手へ業務用向け米の 契約栽培推進

33年産で10万ト以上を目標に提案推進



全農はJAと連携し、生産者の所得、営農の安定を目指して実需者ニーズを踏まえた生産提案型事業を展開し、その一環として業務用実需者との契約栽培の拡大に積極的に取り組んでいます。

【米穀部】

全農ではJA・生産者に対し、業態別の業務用実需者ニーズを踏まえ、収量増で所得確保が見込める「多収品種」や、「用途別適性のある品種」の作付けを提案し、営農支援を行いながら生産拡大を図っています。今後の目標として全国で、30年産で1万ト、31年産で3万トと段階的に拡大し、33年産で10万ト以上を掲げています。

「あきだわら」「やまだわら」「ほしじるし」「とよめき」など農研機構が開発した品種を中心に扱っています。また、農研機構と全農が共同研究で開発した東北向け多収品種「ゆみあずさ」（多収、良食味）は平成29年10月に品種登録出願が公表され、今後、作付け提案を積極的に行っていきます。

全農が多収品種など新しい品種による業務用向け契約栽培を本格的に始めたのは27年産・14畝（4産地）からで、29年産で270畝（20産地）まで拡大しました。現在、県域・本所の「販売・購買・営農」3部門が連携し、販売面では実需者と産地との契約栽培提案・結び付き、購買面では栽培暦の作成など、営農面では有望品種の選定や栽培技術支援を行っています。今後も「全農の総合力」を発揮し、取り組み拡大を進めます。

生産者



生産者の経営安定ニーズ

- 作況や相場に左右されない安定取引をしたい
- 人手不足で繁忙期の労力を分散させたい
- 安定した販路を確保したい …など

全農



業務用向け米の契約栽培推進

業務用実需者



実需者の安定調達ニーズ
（業態別ニーズは多様）

- 加工適性の高い米を使用したい
- 仕入れ価格の乱高下は困るので、安定した価格帯で取引したい …など

農研機構

プレスリリース

平成29年11月1日
農研機構

多収でいもち病に強い良食味水稻新品種「ゆみあずさ」
—東北地域で740kg/10aを上回る高収量、業務用に最適—

農研機構東北農業研究センターは、多収でいもち病に強く耐倒伏性に優れた良食味水稻品種「ゆみあずさ」を育成しました。種肥移植栽培¹⁾の収量は5カ年の平均で743kg/10aで、「あきたこまち」「ひとめぼれ」より約1割多収なことから、業務用米としての利用に適しています。

近年、調理された米を家庭で食べる中食や外食向けの米（業務用米）の消費量は増加傾向にあり、業務用米は不足気味の状況にあります。このため、業務用米の生産拡大に向けて、東北地域で栽培可能な多収性品種が必要とされています。

そこで農研機構は、全国農業協同組合連合会（JA全農）と共同で、東北地域で栽培が可能で、多収かつ、いもち病に強く、倒れにくくて直播栽培にも適した良食味水稻新品種「ゆみあずさ」を育成しました。

農研機構と全農が共同研究で開発した「ゆみあずさ」育成を知らせる農研機構のプレスリリース（抜粋）



止葉が直立して受光態勢が良い多収、良食味の「ゆみあずさ」



「高校野球と食事 ～その大切さを学ぶ～」

シンポジウム開催

「地元愛」育む全農の 「ご飯でチャレンジ、甲子園！」プロジェクト

全農が協力するシンポジウム「高校野球と食事」その大切さを学ぶ」が平成29年12月1日、東京・有楽町の朝日ホールで開かれ、一般応募者643人が参加しました。

【広報部】

「ベストパフォーマンスを発揮するための食事」～お米の重要



全農と野球、海老教授とのプロジェクトについて話す
山崎周二専務

性」と題して立命館大学の海老久美子教授が基調講演、高校球児にとつての食事と運動と休養のバランスの重要性、エネルギー源としてのお米とその食方について講演しました。

パネルディスカッションでは、

元プロ野球選手で少年野球を指導する屋鋪要さんと野球日本代表U-12代表監督の仁志敏久さん、日本大学第三高校硬式野球部監督の小倉全由さんが、それぞれの経験と現在指導する球児たちの食事情を交えながら、「バランス良い身体育成のためには食の自己管理が重要だ」と訴えました。

食の自己管理のために屋鋪さんと仁志さんは「好き嫌い



「高校野球と食事～その大切さを学ぶ」をテーマに開かれたパネルディスカッション

なく食べることに、小倉さんは「おいしく楽しく食べる」ことが大切だと述べました。

海老教授は「食事を楽しくするポイント」は「地元愛」、「フードは風土」。地域で育ち、その代表として甲子園で戦っていく高校球児らには、地域の人たちとの交流はもちろんな、その土地のものをもっと見て感じてもらいたい」と話しました。

屋鋪さん、仁志さんは自身の母親の話を交えながら「子



「ご飯でチャレンジ、甲子園！」プロジェクトの紹介パネル



ブースではパネルのほか、全農の甲子園関連新聞広告（日本農業新聞、朝日新聞、日刊スポーツ）を紹介

どもたちの一番の地元はお母さん。お母さんのご飯がおいしいことが一番の元氣のもと」と話しました。

このシンポジウムは、全農が今年度から取り組む「ご飯でチャレンジ、甲子園！」プロジェクトPRのためのキックオフという位置付け。プロジェクトでは立命館大学と提携し、「米飯と国内産食品を中心とした日本型食生活が、高校球児の心身の成長に及ぼす影響」を調査します。調査対象校には食事指導の他、地元J Aのお米を4年間毎月提供し、球児たちは地元の農業に関わる地域貢献活動を行い、地域や農業との関わりを深めます。

[青 果 情 勢]

(園芸部)



野 菜

寒さで野菜の甘さも増す季節

概況

1月も先月に引き続き、パレイショ・タマネギを除き、西南暖地・中京・関東産地を中心に出荷されます。

キャベツは、愛知・千葉・神奈川などが中心の出荷となります。昨年10月の台風の影響で、種まき遅れや作柄・出荷の不安定な圃場が見られます。出荷量は、前年を下回る見込みです。

ハクサイは、茨城が中心の出荷となります。台風の影響と直近の低温から、肥大は遅延傾向。出荷ペースは緩慢で、出荷量は前年を下回る見込みです。

レタスは、静岡・兵庫・香川などが中心の出荷となります。低温・干ばつで生育はやや遅れ気味。種まきが計画通りにできていない産地もあり、年明けもたらした出荷となる見込みです。出荷量は、前年を下回る見込みです。

ダイコンは、神奈川・千葉などが中心の出荷となります。低温・干ばつで生育ペースが鈍く、出荷量は、前年を下回る見込みです。

ニンジン、は、千葉・埼玉などが中心の出荷となります。作柄は若干小玉傾向。出荷量は少なかった前年並みを見込んでいます。

トマトは、熊本・愛知・千葉などが中心の出荷となります。出荷量は前年をやや下回る見込みです。

キュウリは、千葉・宮崎などが中心の出荷となります。出荷量は前年並みを見込みます。

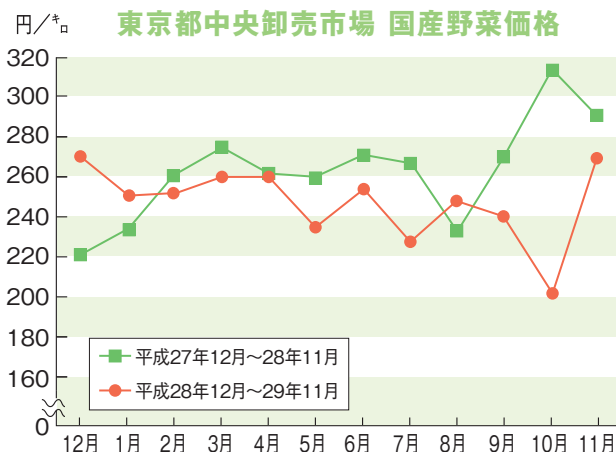
ナス・ピーマンは西南暖地からの出荷が中心。出荷量は前年並みを見込みます。

パレイショは、北海道・長崎・鹿児島などが中心の出荷となります。出荷量は前年をやや下回る見込みです。

タマネギは、北海道が中心の出荷となります。出荷量は前年を下回る見込みです。

店頭

店頭では、引き続き鍋商材が陳列されています。特に、ネギなどの露地野菜は寒さに当てられることにより甘みが増し、おいしい季節となります。また、1月の中旬あたりから、春を先取りして菜の花やグリーンピースなど、春めいた色合いの野菜が店頭をにぎわすようになります。



果 実

ミカン・リンゴ・イチゴの需要期

概況

1月は、先月から引き続きミカン・リンゴ・イチゴ・干し柿が出荷されるのに加えて晩かん類やキウイフルーツが出回り始めます。

ミカン類は、静岡・長崎・愛媛などが中心の出荷となります。昨年12月から出荷量が少ない状況が続いており、越年数量は平年を下回る見込みで年明け以降も前年を下回る出荷量となる見込みです。

「伊予柑」は愛媛から出荷が始まります。生産量は昨年より少ない見込みですが、肥大も良く、市場出荷量は前年並みからやや多くなる見込みです。

「デコボン」の名で知られる「不知火」は、熊本を中心に佐賀・長崎からの出荷となります。1月後半からは無加温ハウス物へと切り替わり、おおむね前年並みの出荷量が見込まれます。

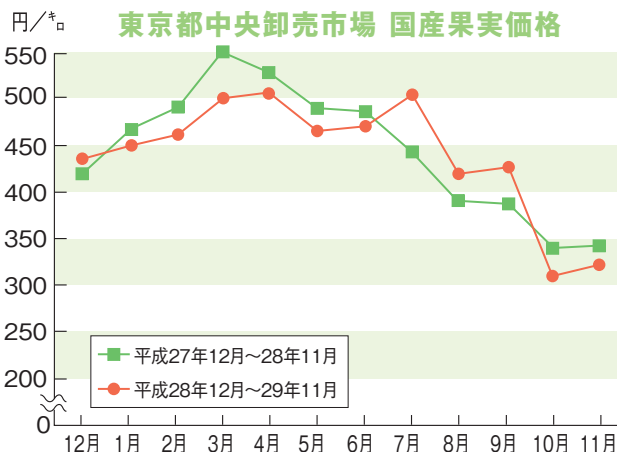
リンゴは、青森の貯蔵品に切り替わってきます。品種は「ふじ」・「王林」・「ジョナゴールド」が中心となります。やや小玉傾向であり、出荷量は前年並みかやや下回る見込みです。

イチゴは、栃木・福岡・静岡・佐賀などからの出荷となります。昨年12月から出荷量が伸び悩んでおり、1月からは徐々に増えてきますが、前年をやや下回る出荷量となる見込みです。

キウイフルーツは、福岡・和歌山・愛媛などからの出荷となります。出荷量は少なかった前年を上回る見込みです。

店頭

新年初売り、成人式などの販促企画に合わせて、さまざまな売り出しがされています。食味はもちろんのこと、鮮やかな彩りなどをアピールし、拡販につなげていきたいです。



主産県
だより

昨年12月は、イチゴ、レタス、キュウリ、トマト・ミニトマトの主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会などを定期的開催し、出荷情報や販売情報の共有を図ります。

[畜 産 情 勢]

(畜産総合対策部)



牛肉

相場は一定程度緩む

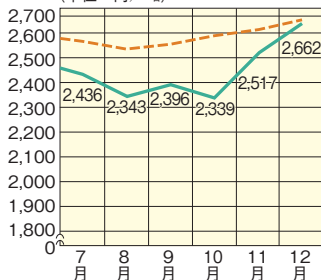
平成29年12月の成牛と畜頭数は、速報値で約8万8千頭(前年比92.0%)と減少しています。

12月の東京市場枝肉卸売価格は速報値で、和牛去勢A5が2919円(前年比99.0%)、和牛去勢A4が2662円(同99.5%)、和牛去勢A3が2435円(同100.9%)、交雑牛B3が1578円(同90.0%)でした。

農畜産業振興機構の1月の国内出荷予測頭数を品種別に見ると、和牛が約3万頭(前年比96.0%)、交雑牛が約1万8千頭(同100.5%)、乳牛(雌含む)が約2万7千頭(同95.3%)で、全体では約7万6千頭(同96.9%)と見込んでいます。

12月の枝肉相場は、上旬から中旬にかけて年末年始需要の盛り上がりから、かなり強含みの相場展開となりましたが、下旬に差し掛かった途端に11月並み水準まで値を下げ、荒い相場展開となりました。1月の相場は、年末年始の繁忙期から需要が減退するため、相場は一定程度緩むものとみられます。

牛枝肉相場(東京市場・和牛去勢A-4)
平成29年7月～29年12月
平成28年7月～28年12月
(単位: 円/キログラム)



豚肉

軟調の見込み

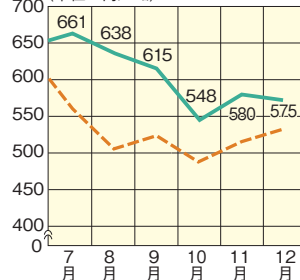
平成29年12月の全国と畜頭数は、速報値で約135万頭、前年比95.9%となっています。

12月の東京食肉市場枝肉相場は、速報値で575円/kg(前年比107.0%、前月比99.1%)となり、前年を大きく上回りました。出荷頭数は、少ないとの見方が先行したものの、比較的気温が安定していたため増体が良く、速報値ベースで前年並みの100.4%となりました。

農林水産省食肉鶏卵課発表の1月出荷予測頭数は、約143万頭(前年比103%)です。11月まで続いた例年にない高値により海外チルドポークの販促固定化や、一部地域での他畜種へのシフト、ひいては単月では過去最高となった輸入量の急増が見られ、12月の市況は盛り上がりには欠ける展開となりました。

年明け以降、売り場や販促が平月ベースに戻る中、肉豚出荷は季節的に増加が見込まれ、市況は軟調に転じると思われますが、海外からのチルドポークの輸入量によっては波乱含みの展開になることも推測されます。

豚枝肉相場(東京市場規格「上」)
平成29年7月～29年12月
平成28年7月～28年12月
(単位: 円/キログラム)



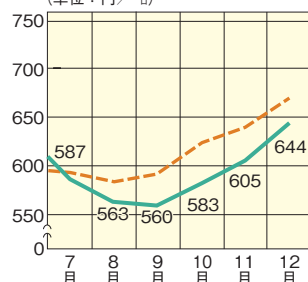
鶏肉

鍋物需要で高水準続く

平成29年12月の相場は、もも肉644円/kg(前月比39円上げ)・むね肉318円/kg(前月比1円下げ)で、正肉合計で962円/kgと前月比38円上げとなりました。もも肉は、12月初め615円、月末676円と上げ幅61円となりましたが、平成28年12月末の689円には及びませんでした。むね肉は前月比若干の下げとなっていますが、旺盛な需要に支えられ前年比60円高と相変わらず高い水準が継続しています。

1月は平均気温が平年並みもしくは低くなるとの予測のため、鍋物需要が続く大きな下げはないものと思われる、もも肉は月平均で640円、むね肉についても加工筋などからの引き合いが引き続き強く、月平均で310円と予測します。

ブロイラー市況(もも肉・東京)
平成29年7月～29年12月
平成28年7月～28年12月
(単位: 円/キログラム)



鶏卵

基準値150円スタート

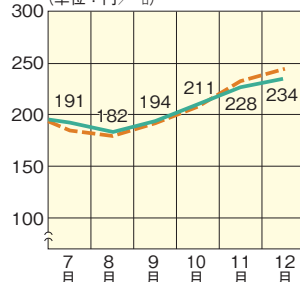
平成29年12月の東京相場の月間平均は、Mサイズ基準値234円(前年比-11円)となりました。

11月から断続的に高病原性鳥インフルエンザが発生し不足感が高まった平成28年と比較すると、12月単月では一段低い水準となりましたが、平成29年の年間平均は、堅調な需要を背景に207円(前年比+2円)となりました。

平成30年の初市については、生産量が増加傾向にある中、業務筋やテーブルエッグの年末需要が予測を下回ったことや加工筋のスポット購入の動きが前年ほど活発ではなかったことから、東京Mサイズ基準値は、150円(前年比△15円)スタートとなりました。

今後、年末年始の産地在庫の解消が進めば、相場水準は徐々に回復する見込みです。

鶏卵相場(東京・Mサイズ基準)
平成29年7月～29年12月
平成28年7月～28年12月
(単位: 円/キログラム)



平成29年度プラント施工管理担当者認証

一級1人、二級5人を それぞれ認証



全農は平成29年11月29日、「プラント施工管理担当者認証制度」に基づく平成29年度の認証者として試験に合格した一級認証プラント施工管理担当者1人、二級認証プラント施工管理担当者5人をそれぞれ認証しました。【生産資材部】



プラント設備の据え付け状況を検査する施工管理担当者

カントリーエレベーター、選果場などの共同利用施設は、従来からの農畜産物を均質かつ多量に供給する機能に加え、外観および内部品質仕分けによる高付加価値化や消費者ニーズに基づく品目・品種の増加による少量多アイテム化への対応が求められています。一方、設備は経年により陳腐化・老朽化するため、更新・修繕保守費用はかさねていきます。このような変化に 대응するため、施設は合理的な運営、再編整備が求められています。

全農は、これらの施設の規模決定、基本設計、施工業者選定、工程管理などを施主の立場に立って実施・支援する農協連合会の施主代行業務を行う担当

者を26年度から認証しています。これにより、多様化するニーズに対応できる知見や法、制度に明るい担当者の育成と技能向上を図ることとし、これまでに一級19人、二級47人を認証しています。

認証は、一定の経験や資格要件を満たす者について厳正な試験を行い、第三者からなる審査委員会の審査を経て行われました。

一級認証プラント施工管理担当者は、「自ら業務を行う他、自己研さんに努め、後継者を育成する者」、二級は「プラントの設計・施工管理業務を遂行するのにふさわしい知識を持ち、上級認証者の指導を受けて業務を行い自らの技能向上に努める者」であり、高い技術水準

と倫理観を備えた職員として、今後の活躍が期待されます。

29年度一級認証プラント 施工管理担当者試験合格者

全農栃木県本部 生活部 施設住宅課	星野谷 輝美
----------------------	--------

29年度二級認証プラント 施工管理担当者試験合格者

ホクレン農業協同組合連合会 帯広支所 施設資材課	徳田 龍介
全農宮城県本部 生産資材部 施設住宅課	水戸 亮介
全農栃木県本部 生活部 施設住宅課	田代 雅彦
全農生産資材部 西日本広域施設農住事業所	深見 美紀
熊本県経済農業協同組合連合会 施設生活部 施設住宅課	原田 隼貴



JAタウン | 検索
クリック

おいしい直売所 JA津軽みらい



【特選品】黒石りんご(サンふじ、約5*20個).....4600円

青森県黒石地区では多品種のおいしいりんごが栽培されており、特に「サンふじ」が多く栽培されています。黒石地区の中山間地で収穫された「サンふじ」は糖度が高く食味良好で、日本全国のりんごファンから、「おいしいりんごを食べるなら「黒石りんご」。」と言われるほど大好評です。

完熟した食味のいいりんごを収穫しているのが、食べておいしい理由です。今シーズンのりんご収穫数量は、昨シーズンと比べると少ないですが、食味はとても良い出来です。

「わやめえりんご食べてけれ」(とてもおいしいりんご食べてください)。

なお、ご紹介した商品は、2/2(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。
商品代金のほか、お届け先により送料が必要となります。

JA全農のインターネット ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>
ショッピングモール ▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。